

日時：令和6年11月22日（金）18時30分から20時00分まで

場所：文京シビックセンター20階 教育委員会室

○文京区立中学校部活動地域移行実施計画2026（素案）について

- ・実施計画（素案）の概要について説明。

実施計画（素案）については、今後、PTAや地域の方へ説明、意見交換を行う予定。

令和7年度の第一回文京区立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討会議で修正した実施計画（素案）を報告予定。

【主な意見等】

- ・保護者や地域住民にはいつ頃にどのような形式で周知するのか。

⇒令和6年12月から令和7年3月までの小学校及び中学校のPTA連合会に教育施策推進課長等が出席し、パワーポイントなどの資料を使用して説明する予定。

- ・グループ協議

【主な意見等】

- ・生徒視点のアウトカムイメージについて、大人が推測で考えたものではなく、子どもの意見がきちんと反映されたアウトカムイメージとなっているのか。

- ・実施計画（素案）では、まず休日の地域移行を進めていくとのことだが、そもそも休日に活動しなければいけないのか。

- ・教員の中でも部活動に関わっていきたい人もいる。そうした教員のやる気や熱意を無駄にしない実施計画にする必要がある。

- ・「意識改革」というワードが実施計画に使用されているが、部活動をやりたい教員もいるため、もう少し柔軟い表現に変えたほうがよいのではないかと。

- ・夏休み期間等の長期休業中は休日に含まれるのかどうか不透明である。

- ・既存の地域クラブと地域移行後のクラブ活動の住み分けもどうなるのか。

- ・文京区の中学校は選択制であり、部活動の有無が学校選びの基準になっているのではないかと。

- ・生徒自身で参加したい活動を選択できるのはよい。

- ・高校入学時には、これまでの交友関係とは別の経験をするようになるが、合同部活動はその経験の先取りができるのではないかと。

- ・合同部活動や地域移行することで、部員の減少等により、部活動維持が困難になるといった不安要素がなくなる。

- ・既存の団体を活用するのは有効であると考えられる。

- ・合同部活動にすると参加者が多いと活動しづらくなるのではないかと懸念はあるが、紅白戦の実施が可能になるなど、活動の幅が広がると考えられる。

⇒人数が多い場合は、拠点校を増やすなどの対応が考えられる。

- ・令和8年度からの実施計画期間を3年間と設定しているのは妥当かと思う。令和11年度からの実施計画期間については、今後の実施状況に応じて、期間を延ばしたり、短くしたりしてよいのではないかと。

- ・指導人材の確保が重要であるとする。生徒が惹きつけられる魅力的な人材がいるとなおよい。
- ・合同部活動の受け皿について、様々な種目の指導者をどう確保・担保していくのか。
- ・部活動は、技術的な部分と人格形成の部分を通して、生徒の成長につながっていく部分がある。部活動が地域移行された場合、専門的な技術指導はできても、人格形成の部分で指導を行っていくのは難しいのではないか。
- ・保護者や地域住民の意識を変えていく必要がある。今までの当たり前が変わっていくため、意識改革するということは、非常に難しい課題であるとする。保護者会等で周知するとともに、定期的に部活動通信を配布するなど、実施計画等を工夫して周知する必要があるのではないか。
- ・部活動地域移行を誰がイニシアティブをとってまとめるのかは、今後の課題である。
- ・今後は公益財団法人日本中学校体育連盟の立ち位置も重要になってくるのではないか。現状、合同チームでの大会出場が認められるか否かについては、競技によって異なる。今後の動向について、注視する必要がある。
- ・次の学習指導要領に部活動がどのような位置付けになり、どう反映されるかによって、今後のスケジュールを見直す必要がある。

○ 区立中学校部活動の紹介について

- ・ジャイアンツ・アカデミーによる野球部合同練習についての実施状況等の報告。

○ その他

- ・次年度開催日程の確認

令和7年度第一回部活動地域移行検討会議は令和7年4月18日（金）を予定。